# 「共創型」サービス・IT連携支援事業 <sup>令和3年度予算額</sup> 5.0億円(5.0億円)

#### 事業の内容

# 事業目的·概要

- 就業者の大宗が働く中小サービス事業者等の生産性革命を達成するには、 IT投資による抜本的な業務・組織改革、すなわちDX(デジタル・トランス フォーメーション)化の推進が必要です。
- しかし、DX化の推進にあたっては、ITツール(ソフトウェアやクラウドサービス)の間で情報の連携ができていないことから、サービス現場の全業務プロセスに一気通貫で対応できず、ITツールが利用者目線で構築されていないという「ITベンダー側のITツールにおける課題」があります。
- また、国内のIT人材の約7割がITベンダー・SIerに存在している中で、中小サービス事業者等が継続的にDX化の取り組みを進めていく上では、事業者の社内でITの活用を検討できるような人材が不足しているという「事業者側のIT人材における課題」があります。
- これらの課題解決に向けて、①ITベンダーと中小サービス事業者等の緊密な協調や、②中小サービス事業者等の自らのベンダー化を促すべく、現場の事業課題を解決するIT活用手法を相互に検討するとともに、既存の複数のITツールを連携させるといったITツールの機能改善を行い、他事業者への普及を見据えて当該ITツールを汎用化する取組を支援します。
- こうした取組を通じて、中小サービス事業者等の生産性を向上させるITツール 導入のモデル事例の創出と、事業者側のIT人材の育成を目指します。

#### 成果目標

事業終了後4年以内に、補助事業者全体の労働生産性の年率平均3%以上向上を目指します。

# 条件(対象者、対象行為、補助率等) 定額補助 補助(2/3等) 国 民間団体等 中小企業等

#### 事業イメージ

## 共創型IT連携補助金

• 中小サービス業やITベンダー等がコンソーシアムを組成し、サービス業の現場の生産性を向上させるべく、API連携等により複数のITツールを連携・組合せたものを導入するとともに、導入後、機能向上(UIやUXの改善を含む)を行い、パッケージ化・汎用化による業界内他社や他地域への当該ツールの普及を目指すことを支援します。

# 【事業イメージ(飲食分野事例)】



## 【事業フロー】



#### 【補助対象】

- ✓ コンソーシアムの運営にかかる費用
- ✓ ツールの導入費用
- ✓ ツールの機能向上・改善にかかる費用
- ✓ ツールの導入効果の検証にかかる費用
- ✓ 事業者のIT活用の研修にかかる費用 等